



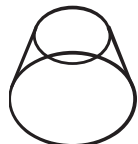
錦絵誕生250年 春信一番！写楽二番！ フィラデルフィア美術館浮世絵名品展

錦絵誕生250年
フィラデルフィア美術館浮世絵名品展
Exhibition on the 250th Anniversary of the Birth of Nishiki-e
Ukiyo-e Masterpieces from the Philadelphia Museum of Art Featuring Harunobu, Sharaku, and More!

東洲斎写楽画

平成27年8月23日(日) - 9月27日(日)

【プレスリリースのお問合せ】 展覧会担当：大石・吉田 広報担当：大庭・青木



静岡市美術館

SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515 (代表) www.shizubi.jp

JR静岡駅北口より徒歩3分 夜7時まで開館

■ 展覧会概要

今から 250 年前の明和 2 年（1765）、多色摺の浮世絵版画が誕生します。それは、錦のように美しいことから“錦絵”と呼ばれ、人気を博しました。江戸時代に誕生した浮世絵は、はじめ紙や絹に直接彩色する肉筆でしたが、次第に多くの人々が購入できるよう版画でも売り出されるようになります。本展では、錦絵誕生以前の鳥居派による役者絵など初期浮世絵から、錦絵誕生に大きくかかわった鈴木春信、美人画の鳥居清長、喜多川歌麿や役者絵の東洲斎写楽、そして風景画の葛飾北斎、歌川広重など代表的な浮世絵師の名品に加え、上方浮世絵も紹介、浮世絵版画の歴史を辿ります。

明治以降、海外でも愛好されるようになった浮世絵は、世界各地の美術館に所蔵されています。本展は其中でも 130 年以上の歴史を持つフィラデルフィア美術館（アメリカ・ペンシルベニア州）の 4,000 点以上の膨大な浮世絵コレクションから、150 点を厳選し、その全体像を紹介する、日本で初めての展覧会です。



フィラデルフィア美術館 Courtesy of Philadelphia Museum of Art

第 1 章 錦絵以前 浮世絵版画の始まり

浮世絵版画は、墨一色で摺られた「墨摺絵」にはじまります。墨摺絵に筆で彩色する「丹絵」^{たんえ}、「漆絵」^{うるしえ}、「紅絵」^{べにえ}、続いて墨摺に草・黄・紅色を木板で摺り重ねる「紅摺絵」^{べにずりえ}が考案され、さらに色数の多い木版多色摺、いわゆる「錦絵」が誕生します。



絵師未詳《朝鮮人曲馬図 十二》
天和3年(1683)
Philadelphia Museum of Art:
Purchased with the Lola Downin Peck Fund, 1970



大森善清《『よろひ桜』より「紅葉狩」》
元禄15-16年(1702-03)頃
Philadelphia Museum of Art: Gift of Mrs. Anne Archbold, 1946



初代鳥居清信
《二代目市川團十郎の鳴神上人と
中村竹三郎の雲の絶間姫》
正徳5年(1715)
Philadelphia Museum of Art: Gift of
an anonymous donor for
the Henry LaBarre Jayne Collection, 1927

← 本図しか存在が確認されていない希少な作品

第2章 錦絵の誕生 春信の浮世絵革命

明和2年、江戸の趣味人たちの間で^{えごみ}絵暦（カレンダー）交換が流行します。鈴木春信ら絵師が趣向を凝らし、彫・摺師が緻密かつ繊細に作りあげた絵暦は、木版画技術を飛躍的に向上させ、間もなく浮世絵木版画は「錦絵」として一般に広く売り出されます。錦絵の誕生には職人たちの技術が欠かせないのです。



芦の葉にのり川を渡る。彼女は何者？



達磨を遊女に置き換えて（やつして）描いた「やつし絵」。芦の葉にのって長江を渡るという達磨の伝承を描いた禅画「芦葉達磨」を踏まえています。「苦界十年」のつらい年季奉公をする遊女は、しばしば「面壁九年」の達磨にたとえられます。

超絶技巧！ここに注目！！

着物は3版の紅を使い分け、川面には空摺(エンボス加工)と薄い藍をのせる。



鈴木春信《やつし 芦葉達磨》
明和2-4年(1765-67)頃
Philadelphia Museum of Art: Gift of Mrs. Emile Geyelin
in memory of Anne Hampton Barnes, 1960



メイワニ

大二三五六八十



襟に「メイワニ」「大二三五六八十」とあり、明和2年の絵暦とわかる。

江戸のカレンダー 絵暦

江戸時代は太陰暦のため、ひと月30日(大の月)と29日(小の月)が年ごとに変化します。大の月と小の月が記載された暦は大小暦、絵入の暦は絵暦と呼ばれました。本作に描かれた「メイワニ」は明和2年、「大二三五六八十」は、明和2年のうち2、3、5、6、8、10月が大の月であることを示しています。絵暦は制作依頼主の知り合いに配る、いわば非買品。その豪華な版木に目を付けた版元が買い求め、暦部分を削って摺り、販売されました。

鈴木春信《若侍の身支度》 明和2年(1765)
Philadelphia Museum of Art: Gift of
Mrs. Henry LaBarre Jayne for the Henry LaBarre Jayne
Memorial Collection, 1926

「鈴木春信 ^{あづまにしきえ} 東錦絵といふ看板を所々の画草紙屋へかけさせて売出す ^{えぞうしや} 今の錦絵の祖なり」
(森島中良『復古籠』より)

春信の頃の錦絵は、いわば高級品でしたが、春信が亡くなると次第に安価になり、広く庶民へと普及していきました。



湯屋の行き帰り、すれ違う女性達と少女。何やら会話を交わしているように見えます。物語性のある作品は、春信の魅力の一つです。

鈴木春信《風俗四季哥仙 五月雨》 明和5年(1768)頃
Philadelphia Museum of Art: Gift of Vera White, 1955

第3章 錦絵の展開 清長・歌麿・写楽

—みずみずしい美人と個性的な役者たち

一世を風靡した華奢で可憐な春信の美人画。しかし天明・寛政期(1781-1801)に入ると、表情・身体ともにその表現は次第に現実的になっていきます。八頭身の美人群像を得意とした鳥居清長、おおくびえ大首絵の肉感的な美人を描いた喜多川歌麿、デフォルメして役者大首絵を描いた東洲斎写楽など個性的な絵師たちが登場。錦絵は黄金期を迎えます。

《美人画》



大判の紙を三枚続けて
ワイドスクリーンに

鳥居清長《吉原の花見》 天明5年(1785)
Philadelphia Museum of Art: Gift of
Mr. and Mrs. Lessing J. Rosenwald, 1959

超絶技巧！ここに注目！！

けわり
毛割

人物の髪の生え際を表現する彫り。
彫師の中でもかしらぼりかしらぼりと呼ばれる師匠格
が担当。



初代喜多川歌麿
《青楼七小町鶴屋内藤原しのぶうたの》
寛政6-7年(1794-95)頃
Philadelphia Museum of Art: Gift of Mrs. Emile Geyelin
in memory of Anne Hampton Barnes, 1960

→ 胸から上をクローズアップする大首絵！
恋する乙女の繊細な表情も見事に表現します。



初代喜多川歌麿《歌撰恋之部 稀二逢恋》
寛政5-6年(1793-94)頃
Philadelphia Museum of Art: The Samuel S. White 3rd
and Vera White Collection, 1958

《役者絵》



東洲斎写楽《三代目大谷鬼次の江戸兵衛》
寛政6年(1794)
Philadelphia Museum of Art: The Samuel S. White 3rd
and Vera White Collection, 1956



東洲斎写楽《四代目岩井半四郎の重の井》
寛政6年(1794)
Philadelphia Museum of Art: The Samuel S. White 3rd
and Vera White Collection, 1967

← 背景は豪華な雲母摺。きらすり墨+雲母で銀色に。

→ 役者だけでなく相撲絵も手がけました。
描いたのは当時人気の子ども力士！



東洲斎写楽《碁盤を持ち上げる大童山》
寛政7年(1795)
Philadelphia Museum of Art: Gift of Elizabeth Matthews Jayne
for the Henry LaBarre Jayne Collection, 1926

第4章 錦絵の成熟 北斎・広重

―旅への憧れ、花鳥への眼差し

天保期(1831-45)、葛飾北斎はそれまで主流であった役者絵・美人画に加え、風景画という新たなジャンルを確固たるものとなりました。続く歌川広重も「名所絵」などを数多く手がけ、風景版画は旅ブームと相まって人気となります。この頃の錦絵は、風景画のほか、花鳥画・武者絵・戯画など多様化し、円熟の域に達します。

→「赤富士」とも呼ばれる北斎の代表作。初摺に近く必見の名品



舶来の絵具、プルジャンブルー（ベロ藍）

葛飾北斎《富嶽三十六景 凱風快晴》
天保元-3年(1830-2)頃
Philadelphia Museum of Art:
Gift of Mrs. Moncure Biddle in memory of
Ernest Fenollosa, 1958



初代歌川広重《名所江戸百景 深川洲崎十萬坪》
安政4年(1857)
Philadelphia Museum of Art: Gift of Mr. and
Mrs. Lessing J. Rosenwald, 1959

第5章 上方の錦絵 流光斎・長秀

―ありのままに描く

錦絵といえば江戸が主流ですが、江戸よりやや遅れて寛政3年(1791)、上方(京・大坂)でも役者絵が作られます。江戸と異なりあまり役者を美化せず、「ありのまま」に描き、また「合羽摺」の技法を用いるなど、上方独自の芸術を確立していきました。

上方浮世絵の特徴の一つ「合羽摺」。合羽摺とは、主版(輪郭線)は木版で摺り、色版は渋を引いた厚紙を切り抜き刷毛で絵具を塗る、いわばステンシルのような技法です。

→八角形の団扇。合羽摺で作られている



有楽斎長秀《二代目沢村田之助のこし元千鳥》
文化4年(1807)
Philadelphia Museum of Art: Gift (by exchange) of
Mr. and Mrs. Roderick Seidenberg, 1971

錦絵誕生250年 春信一番！写楽二番！

フィラデルフィア美術館
浮世絵名品展

平成27年8月23日（日）－9月27日（日）※会期中無休

■開館時間：10：00－19：00（入場は閉館の30分前まで）

■観覧料：一般1,100（900）円、大高生・70歳以上700（500）円、中学生以下無料

*（ ）内は前売および20名以上の団体料金

*障害者手帳等をご持参の方および介助に必要な方は無料

■前売券：7月中旬より8月22日（土）まで販売

静岡市美術館、チケットぴあ、ローソンチケット、セブンチケット、谷島屋呉服町本店、谷島屋マークイズ静岡店、戸田書店静岡本店、戸田書店城北店、江崎書店パルシェ店、MARUZEN& ジュンク堂書店新静岡店

■主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、静岡第一テレビ、読売新聞社

■後援（予定）：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

■特別協賛：**セキスイハイム東海** ■協賛：瞬報社写真印刷 ■協力：日本航空

関連事業

- 講演会①「フィラデルフィア美術館の浮世絵
—春信・写楽・千社札を中心に—」
日時：8月23日（日）14：00－15：00
講師：浅野秀剛氏
（あべのハルカス美術館館長／大和文華館館長）
会場：当館 多目的室
参加料：無料
定員：70名（応募多数の場合は抽選）
申込締切：8月7日（金）必着
- 講演会②「春信の浮世絵革命—錦絵の誕生」
日時：9月5日（土）14：00－15：00
講師：小林忠氏（岡田美術館館長）
会場：当館 多目的室
参加料：無料
定員：70名（応募多数の場合は抽選）
申込締切：8月21日（金）必着
- ミュージアム・コンサート
後藤幸治&水島結子 琵琶デュオ・コンサート（仮称）
日時：9月27日（日）15：00－16：00（14：30開場）
会場：当館 多目的室
演目：①祇園精舎～那須与一（平家物語より）
②うたえやうたえ（梁塵秘抄より）
③逢瀬（閑吟集より）
④忠臣蔵「道行」
参加料：500円（先着順）※7月ごろ発売予定
定員：70名（全席自由席）
チケット取扱窓口・問合せ：当館（054-273-1515）、
静岡音楽館AOI（054-251-2200）
- 当館学芸員によるスライドトーク
日時：①展覧会見どころ解説
9月6日（日）
②この1点をとことん語る
「春信《やつし芦葉達磨》」
9月13日（日）
いずれも14：00～（30分程度）
参加料：無料（要観覧券） 申し込み不要
- しずびチビッコプログラム
小さな子ども達のためのアート体験プログラム。
保護者の方は展覧会をご覧ください。
日時：9月12日（土）①10：30－12：00、②14：00－15：30
対象：2歳以上の未就学児 各回10名
会場：当館 ワークショップ室
参加料：子ども1名につき500円（保護者の方は要観覧券）
※当館のHP申込フォーム（www.shizubi.jp）または官製はがきに
保護者の氏名・子どもとの続柄・住所・電話（緊急連絡先）・子ども
の名前・子どもの人数・性別・年齢（月齢まで）・希望時間 を明記

【1～2申込方法】

当館のHP申込フォーム（www.shizubi.jp）または
往復はがきにて。一件につき4名様まで。

※往復はがきでのお申込み方法

①催事名、催事日、②氏名（参加人数分）、③年齢（参加人数分）、
④住所（郵便番号から）、⑤電話番号をご記入の上、
静岡市美術館まで。

※抽選の如何にかかわらず結果は通知いたします。



①

東洲斎写楽《三代目大谷鬼次の江戸兵衛》
寛政6年(1794) フィラデルフィア美術館
Philadelphia Museum of Art: The Samuel S. White 3rd and Vera White Collection, 1956
(Mae Belle Vargas, Photographer)



②

鈴木春信《やつし芦葉達磨》
明和2-4年(1765-67)頃 フィラデルフィア美術館
Philadelphia Museum of Art: Gift of Mrs. Emile Geyelin in memory of Anne Hampton Barnes, 1960
(Mae Belle Vargas, Photographer)



③

初代鳥居清信《二代目市川團十郎の鳴神上人と中村竹三郎の雲の絶間姫》
正徳5年(1715) フィラデルフィア美術館
Philadelphia Museum of Art: Gift of an anonymous donor for the Henry LaBarre Jayne Collection, 1927
(Mae Belle Vargas, Photographer)



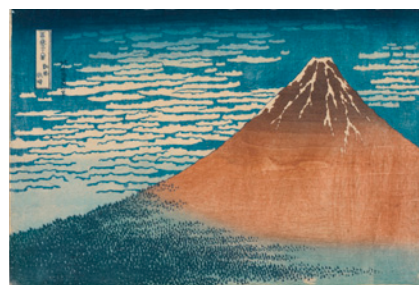
④

鈴木春信《風俗四季哥仙 五月雨》
明和5年(1768)頃 フィラデルフィア美術館
Philadelphia Museum of Art: Gift of Vera White, 1955
(Mae Belle Vargas, Photographer)



⑤

初代喜多川歌麿《歌撰恋之部 稀二逢恋》
寛政5-6年(1793-94)頃 フィラデルフィア美術館
Philadelphia Museum of Art: The Samuel S. White 3rd and Vera White Collection, 1958
(Mae Belle Vargas, Photographer)



⑥

葛飾北斎《富嶽三十六景 凱風快晴》
天保元-3年(1830-32)頃 フィラデルフィア美術館
Philadelphia Museum of Art:
Gift of Mrs. Moncure Biddle in memory of Ernest Fenollosa, 1958
(Mae Belle Vargas, Photographer)



⑦

初代歌川広重《名所江戸百景 深川洲崎十万坪》
安政4年(1857) フィラデルフィア美術館
Philadelphia Museum of Art: Gift of Mr. and Mrs. Lessing J. Rosenwald, 1959
(Mae Belle Vargas, Photographer)



⑧

有楽斎長秀《二代目沢村田之助のこし元千鳥》
文化4年(1807) フィラデルフィア美術館
Philadelphia Museum of Art: Gift (by exchange) of Mr. and Mrs. Roderick Seidenberg, 1971
(Mae Belle Vargas, Photographer)